



令和3(2021)年度
事業報告書



「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学校法人金井学園

【法人の概要】 1



I・法人の概要

1. 建学の精神	3
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校・学部・学科等	6
4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況	8
5. 役員（理事・監事）の概要	9
6. 評議員の概要	10
7. 学校長	11
8. 教職員の概要	11
9. 組織図	12

II・事業の概要

1. 第3次中期計画	13
2. 福井工業大学	14
3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校	19
4. 福井県医療福祉専門学校	21
5. 福井製菓専門学校	22
6. 法人本部	23
7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況	25
8. 施設等の状況	26

III・財務の概要

1. 決算の概要	
1-1. 資金収支計算書	27
1-2. 事業活動収支計算書	28
1-3. 貸借対照表	29
2. 主な財務比率比較	
2-1. 主な財務比率比較	30
3. その他	
3-1. 有価証券の状況	31
3-2. 借入金の状況	31
3-3. 学校債の状況	31
3-4. 寄付金の状況	32
3-5. 補助金の状況	32
3-6. 収益事業の状況	33
3-7. 関連事業者との取引の状況	33
4. 来年度以降の展望	33



1. 建学の精神

金井 学園
建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と伝統とに
根ざした愛国心を培い、節義を重んずる
人格の育成、科学技術の研鑽に努め、
以て人類社会の福祉に貢献する。



2. 法人の沿革 (令和3年5月1日現在)

昭和 25 年 4 月	福井市豊島上町 93 番地に中学校卒業を入学資格とする (2 年制) と専科 (夜間 1 年制) を有する北陸電気専門学校を創設
27 年 4 月	本校を 3 年制とし、高校教科書による単位修得に改める
27 年 11 月	生徒数の増加及び実験室等の整備のため福井市明里町 29 番地に移転
33 年 4 月	建設科を増科
34 年 2 月	学校法人金井学園創立認可
34 年 4 月	福井実業高等学校として発足 学校教育法に規定する工業課程の高等学校として電気科・建設科を置く
34 年 11 月	福井市東明里町 20 番地に校舎新築移転
35 年 4 月	福井実業高等学校に生活科学科 (女子) 増科
36 年 4 月	福井実業高等学校に電気通信科増科
36 年 11 月	福井実業高等学校同科廃止
37 年 4 月	福井実業高等学校に電子科・機械科増科
37 年 12 月	福井短期大学設置認可
38 年 4 月	福井短期大学 (電気科) 開学
39 年 4 月	福井短期大学に機械・家政科増科 教職課程設置
40 年 2 月	福井工業大学設置認可
40 年 4 月	福井工業大学 (電気工学科・機械工学科) 開学
40 年 4 月	福井短期大学家政科を独立して、福井女子短期大学と改称
40 年 4 月	福井実業高等学校の生活学科を普通科 (女子) と改称
40 年 10 月	福井実業高等学校を福井高等学校と改称
41 年 4 月	福井工業大学に建設工学科増科 教職課程設置
41 年 4 月	福井女子短期大学家政科を家政・食物栄養に専攻分離
41 年 4 月	福井高等学校に普通科 (男子) 増科
42 年 4 月	福井高等学校にデザイン科を増科 電子科を電気科に統合 建築科と改称し、建築・土木の 2 コースとする
43 年 4 月	福井高等学校に衛生看護科増科
44 年 4 月	福井高等学校に自動車整備科増科 電気科にテレビコース開設
45 年 4 月	福井女子短期大学の家政専攻を家政経済専攻と改称
47 年 4 月	福井高等学校に航空機整備科を増科
48 年 4 月	福井工業大学に応用物理学科増科
52 年 8 月	福井女子短期大学廃止
53 年 2 月	福井高等学校を福井工業大学附属福井高等学校と改称



54年4月	福井工業大学応用物理学科の改称を環境安全工学科に変更
55年4月	フクイモダンデザイン専修学校設置
58年4月	福井工業大学機械工学科を機械工学専攻・電子工学専攻に専攻分離
60年4月	福井工業大学に大学院（工学研究科）設置
61年4月	福井工業大工学部期間を付した定員増(平成11年迄)
62年4月	福井工業大学に経営工学科設置
63年4月	福井工業大学附属福井高等学校に商業情報科設置
平成 元年 4月	福井工業大学附属福井中学校設置
元年 4月	別科（工学専修科）に土木工学専攻・化学計測専攻・経営情報学専攻を開設
元年 4月	福井工業大学工学研究科博士課程開設
4年 4月	福井産業デザイン専修学校の高等課程を廃止し、商経専門課程を設置
7年 12月	福井工業大学に編入学制実施
10年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に衛生看護専攻科を設置
13年 4月	福井工業大学に宇宙通信工学科設置
14年 4月	福井工業大学電気工学科を電気電子工学科に名称変更
15年 4月	福井産業デザイン専修学校を廃止
15年 7月	収益事業の認可
16年 4月	福井工業大学経営工学科を経営情報工学科へ名称変更
16年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に工業科、情報科を設置
17年 4月	福井工業大学に原子力技術応用工学科を設置
21年 4月	福井工業大学にデザイン学科を設置
22年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に特別進学科・進学科を設置
23年 4月	福井工業大学に産業ビジネス学科を設置
24年 4月	福井工業大学建築生活環境学科を設置
27年 4月	福井工業大学にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を設置
27年 4月	福井工業大学に環境情報学部環境・食品科学科、同経営情報学科、及び同デザイン学科を設置
27年 4月	福井工業大学工学部電気電子情報工学科を電気電子工学科へ、また同建築生活環境学科を建築土木工学科へ名称変更
30年 4月	収益事業（若狭町みさき漁村体験施設の指定管理者としての請負業）の認可
令和 2年 4月	福井工業大学環境情報学部環境・食品科学科を環境食品応用化学科へ名称変更
3年 4月	学校法人新和学園（福井県医福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校）と法人合併



3. 設置する学校・学部・学科等 (令和3年5月1日現在)



福井工業大学

Fukui University of Technology

- 工学部
 - ・電気電子工学科
 - ・機械工学科
 - ・建築土木工学科
 - ・原子力技術応用工学科
- 環境情報学部
 - ・環境食品応用化学科
 - ・経営情報学科
 - ・デザイン学科
- スポーツ健康科学部
 - ・スポーツ健康科学科
- 大学院
 - ・応用理工学専攻 (博士前期)
 - ・社会システム学専攻 (博士前期)
 - ・応用理工学専攻 (博士後期)
 - ・社会システム学専攻 (博士後期)



福井キャンパス



あわらキャンパス



福井工業大学附属 福井高等学校

Fukui Senior High School

- 特別進学科
- 進学科
- 衛生看護科
- 衛生看護専攻科



福井工業大学附属 福井中学校

Fukui Junior High School





福井県医療福祉専門学校 Fukui Medical Welfare College

- こども・介護学科
- 医療事務学科



福井製菓専門学校 Fukui Confectionery College

- 製菓衛生師科



福井公務員専門学校 Fukui Public Servant College

- 公務員学科





4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

4-1. 福井工業大学・大学院 (令和3年5月1日現在)

(単位：人)

学部	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
工学部	機械工学科	80	86	370	
	電気電子工学科	80	87	361	
	原子力技術応用工学科	20	25	115	
	建築土木工学科	70	76	322	
	計	250	274	1,168	
環境情報学部	デザイン学科	50	58	246	
	環境食品応用化学科	40	27	152	
	経営情報学科	90	100	392	
	計	180	185	790	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	70	81	324	
	計	70	81	324	
	合計	500	540	2,282	
工学研究科(博士課程前期)	応用理工学専攻	17	4	10	
	社会システム学専攻	8	3	12	
	計	25	7	22	
工学研究科(博士課程後期)	応用理工学専攻	4	0	6	
	社会システム学専攻	2	3	13	
	計	6	3	19	
	合計	31	10	41	

4-2. 福井工業大学附属福井高等学校・衛生看護専攻科 (令和3年5月1日現在)

課程	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	特別進学科	100	94	307	
	進学科	380	367	1,063	
	衛生看護科	40	42	114	
	合計	520	503	1,484	
	衛生看護専攻科	40	43	71	
	合計	40	43	71	

4-3. 福井工業大学附属福井中学校 (令和3年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	80	73	229	

4-4. 福井県医療福祉専門学校 (令和3年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
社会福祉専門課程	100	41	84	
商業実務専門課程	40	25	25	
合計	140	66	109	

4-5. 福井製菓専門学校 (令和3年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
衛生専門課程	20	9	22	

4-6. 福井公務員専門学校 (令和3年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
文化教養専門課程	40	2	2	

4-7. 学生・生徒総計 (令和3年5月1日現在)

	入学定員数	入学者数	現員数
学生・生徒総数	1,371	1,246	4,240



5. 役員(理事・監事)の概要 (令和4年3月31日現在)

定員数 理事 10名 監事 2名

役職名	氏名	現職	常勤 非常勤	選任条項	摘要
理事	金井 兼	理事長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成4年12月理事就任 平成4年12月理事長就任
理事	松浦 悦郎	常務理事 法人本部総務部長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成25年4月理事就任 平成25年4月常務理事就任
理事	掛下 知行	福井工業大学 学長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成30年4月理事就任 平成30年4月学長就任
理事	佐々木 栄秀	附属福井高等学校・中学校 校長	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	平成31年4月理事就任 令和2年4月附属高校校長就任
理事	池田 岳史	福井工業大学 副学長	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成31年4月理事就任 平成29年4月副学長就任
理事	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和4年1月理事就任
理事	井上 毅	弁護士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	平成25年7月理事就任
理事	渡辺 雅之	税理士	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	令和2年4月理事就任
理事	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	平成28年4月理事就任 平成28年4月秘書室長就任
理事	藤井 貴広	附属福井高等学校 教頭	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	令和2年4月理事就任 平成31年4月附属高校教頭就任
監事	吉田 五衛	無職	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任
監事	野村 孟弘	会計士	非	寄附行為第十三条	令和2年4月監事就任



6. 評議員の概要 (令和4年3月31日現在)

定員数 21名

役職名	氏名	現職	選任条項	上段:就任年月日 下段:重任年月日
評議員(学内)	金井 兼	理事長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成2年7月2日 平成30年8月8日
評議員(学内)	松浦 悦郎	常務理事 法人本部総務部長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成2年7月2日 平成30年8月8日
評議員(学内)	掛下 知行	福井工業大学 学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成30年4月1日
評議員(学内)	佐々木 栄秀	附属高等学校・中学校 校長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日
評議員(学内)	池田 岳史	福井工業大学 副学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成31年4月1日
評議員(学外)	黒川 二二夫	黒川建築設計室代表	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和4年1月24日
評議員(学外)	井上 毅	弁護士	寄附行為第二十条 第一項第一号	平成25年7月2日 平成30年8月8日
評議員(学外)	渡辺 雅之	税理士	寄附行為第二十条 第一項第一号	令和2年4月1日
評議員(学内)	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成28年4月5日 平成30年8月8日
評議員(学内)	藤井 貴広	附属高等学校 教頭	寄附行為第二十条 第一項第二号	令和2年4月1日
評議員(学内)	渡邊 徹也	法人本部 経営企画部長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成31年4月1日
評議員(学内)	佐々木 弘	福井工業大学 教授	寄附行為第二十条 第一項第二号	昭和63年4月6日 平成30年8月8日
評議員(学内)	宮本 由佳子	法人本部 経営企画部次長	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成30年4月1日 平成30年8月8日
評議員(学内)	吉村 喜信	福井ホースパーク 苑長 福井工業大学非常勤講師	寄附行為第二十条 第一項第二号	平成13年11月26日 平成30年8月8日
評議員(学外)	山田 健治	社会福祉法人 やしろ中央会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第三号	昭和49年4月23日 平成30年8月8日
評議員(学外)	金井 泉	無職	寄附行為第二十条 第一項第三号	平成6年8月8日 平成30年8月8日
評議員(学外)	高橋 正直	(有)高橋地所 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成25年4月1日 平成30年8月8日
評議員(学外)	渡邊 忠造	税理士	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成20年4月1日 令和2年4月1日
評議員(学外)	松本 清次	(株)江守情報 顧問	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成16年7月6日 平成30年8月8日
評議員(学外)	藤井 求	無職	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成11年7月9日 平成30年8月8日
評議員(学外)	高橋 正恭	(株)C&B 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	平成27年4月1日 平成30年8月8日



7. 学校長 (令和4年3月現在)

学校名	役職名	氏名
福井工業大学	学長	掛下 知行
福井工業大学附属福井高等学校	校長	佐々木 栄秀
福井工業大学附属福井中学校		
福井県医療福祉専門学校	校長	栗原 美幸
福井公務員専門学校		
福井製菓専門学校	校長	藤井 幸子

8. 教職員の概要 (令和3年5月1日現在)

(単位：人)

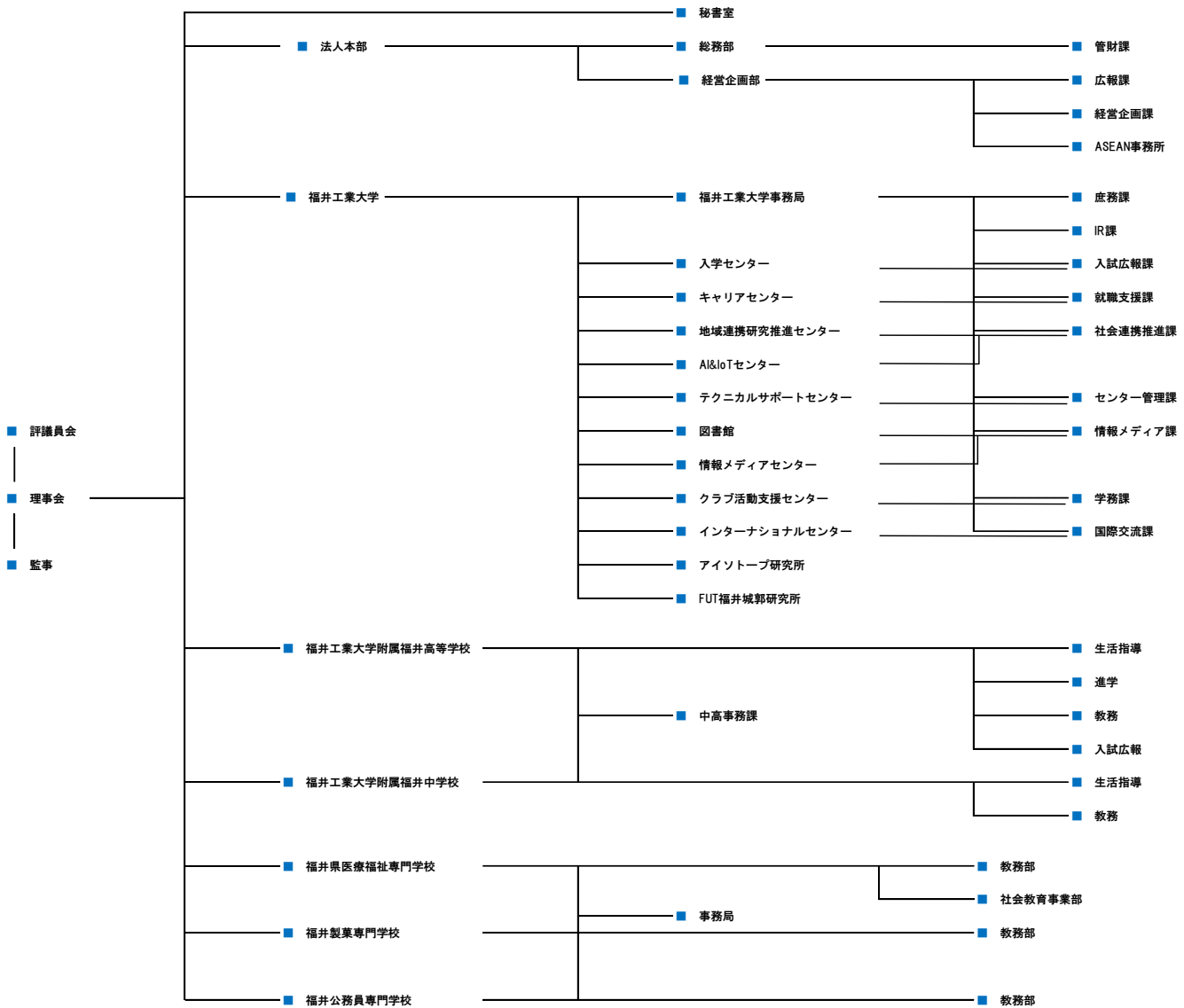
	教員		職員	
	本務	兼務	本務	兼務
法人本部			20	8
福井工業大学	99	75	80	13
福井工業大学附属福井高等学校	64	116	14	6
福井工業大学附属福井中学校	15	17	1	1
福井県医療福祉専門学校	15	54	5	0
福井製菓学校	3	13	0	13
福井公務員専門学校	0	4	1	4
合計	196	279	121	45

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。





9. 組織図 (令和4年3月31日現在)



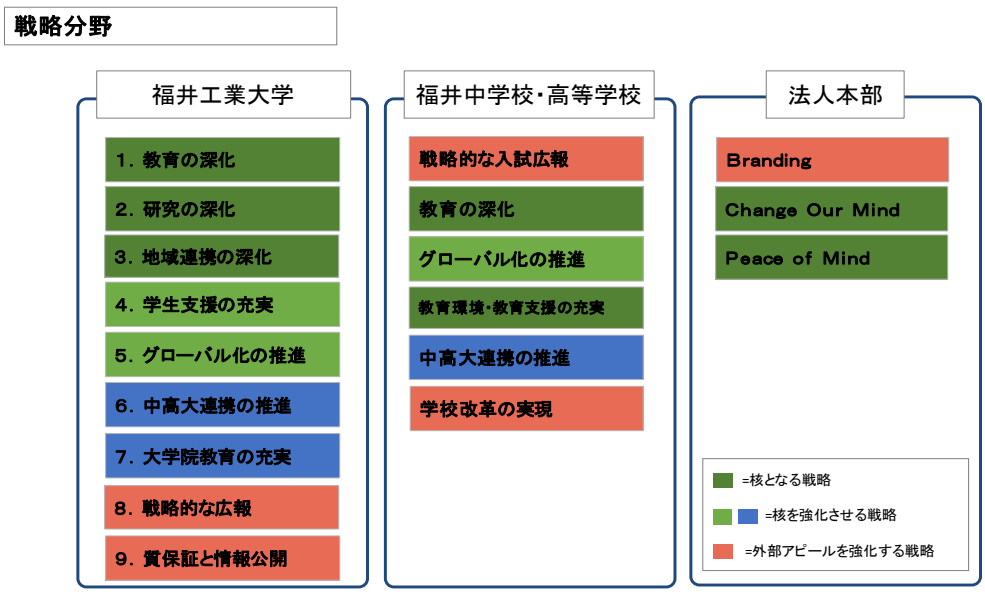
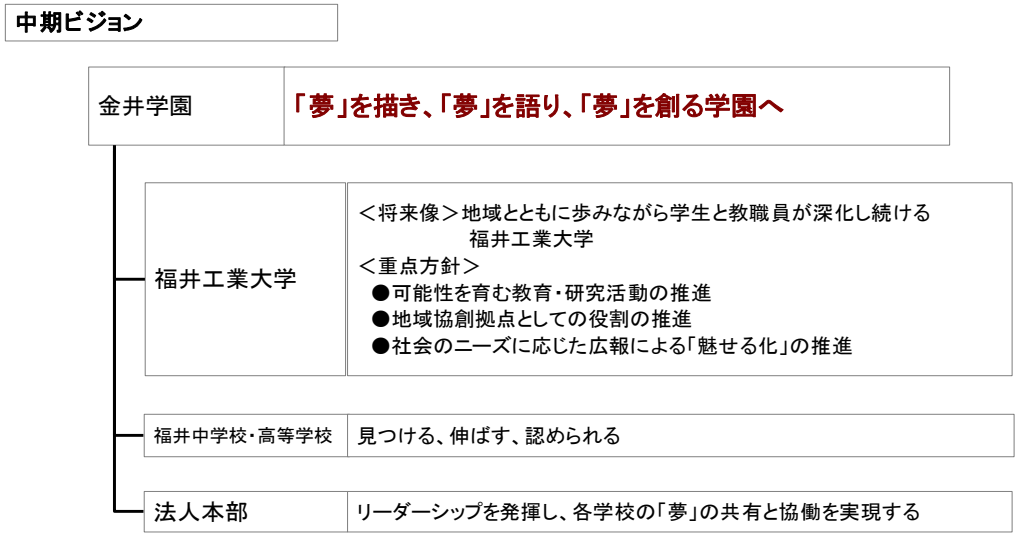


1. 第3次中期計画

第3次中期計画（2019年度～2024年度）

第2次中期経営計画に続く第3次中期計画「“夢”描き “夢”を語り “夢”を創る学園へ」を中期ビジョンとして掲げ実行します。

以下の【戦略分野】からなり、各学校の行動目標は、次のとおりです。





2. 福井工業大学

教育の深化

1. 学生の主体的な学びの促進と展開

(1) ハイブリット型授業の実施

令和3年度の授業においては、教養科目は原則オンライン、実験・実習科目の多い専門科目は原則対面で授業を実施しました。学習管理システム「manaba」や双方向型テレビ会議システム「Microsoft Teams」を学習ツールや授業運営ツールとして最大限に活用し、授業を行いました。

(2) 初年次教育プログラムの実施

自己理解等を目的とした初年次教育プログラムを入学直後の新入生オリエンテーションの中で対面形式にて実施しました。新入生540名のうち524名が参加し、学生間の相互理解、交流を図ることで、コロナ禍で新しい学生生活に不安を抱いている新入生にとって満足度の高いプログラムとなりました。



2. 更なる発展に向けた取り組み

(1) 大学の発展に向けた新学部の設置

平成27年度に3学部となり、教育研究の充実を図ってきました。近年、データサイエンス並びに人工知能(AI)の普及により、様々な分野でデータの利活用が進み、モノづくりのデジタル化やサービス産業の多様化により、データサイエンスを基礎とする事業者や技術者の養成が地方圏の課題解決

及び活性化に必要不可欠となっています。学部学科設置ワーキンググループを中心に継続的に協議を行ってきた結果、令和5年度より「経営情報学部」の設置することが機関決定されました。また、これに伴い、既存の学部学科の再編を実施し、環境情報学部は環境学部として1学部2学科、工学部電気電子工学科は、電気電子工学の基礎・情報技術を修得し、情報技術分野で活躍できる実践的な技術者の育成を行う学科であることを広く周知するため、電気電子情報工学科と学科名称変更を行うこととなりました。

(2) 私立大学等改革総合支援事業の採択に向けた全学的取り組みの強化

令和2年度の私立大学等改革総合支援事業の選定結果を受け、令和3年度はタイプ1~3のすべてに採択が達成できるよう、学内の教育研究および管理運営の事項について、教職協働で未実施の事業の実現に向けたスケジュールの確認、担当部局をまたいだ協議を実施しました。その結果、令和3年度の同事業の選定の結果通知が令和4年2月にあり、本学は全4タイプの内、タイプ1『Society5.0』の実現に向けた特色ある教育の展開、タイプ2「特色ある高度な研究の展開」、タイプ3「地域社会への貢献(プラットフォーム型)」の3タイプの選定がなされました。4タイプ全てに選定された4大学に次ぐ、3タイプ選定は全国で21大学、東海・北信越では本学を含む4大学のみで、本学の着実な取り組みが評価されました。



研究の深化

1. 地域活性化の役割を担う研究活動の推進

(1) 自治体との連携による活動

本学と大野市は、平成30年度に相互連携協定を締結し、環境省が実施した全国星空継続観察において2年連続(平成16・17年)に「日本一の星空」に選ばれた六呂師高原の夜空に着目し、星空を活用した地域活性化事業を「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」にて協働で推進しており、大野市の星空を星空の世界遺産「星空保護区」の認定を目指すため支援を行っています。令和3年、掛下学長と石山市長が大野市役所にて、本学と大野市との協働により今日まで推進している六呂師高原における新たな星空観光創出の取り組みについて対談を行いました。



(2) 地元企業との連携による活動

本学 AI&IoT センターでは、株式会社ホリタ様と「FAA 学ぶなら福井！応援事業(福井版 PBL 支援分)」の補助事業において、文房具 POS データと Twitter データを元に AI とデータサイエンスを活用し、文房具に対する消費者ニーズの分析の共同研究を行っています。同研究の一環として、ホリタ文具春江店において、芥子センター長と研究室の学生がアバターロボットの実証実験を行いました。



2. 研究活動に集中できる環境

工系大学の相互の連携・協力による理

工系高等教育の更なる活性化を目指した「工大サミット」に、本学は令和元年から加盟しています。令和3年度「第4回工大サミット」(広島工業大学)は、SDGs やポストコロナの教育をテーマに開催され、掛下学長の参加に加え、SDGs の事例紹介として環境情報学部環境食品応用化学科笠井研究室に所属する学生が登壇し、「雨水利用による持続可能社会の模索」と題して、取組事例を発表しました。

3. 積極的な研究活動の発信

「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」宇宙研究推進本部主催の特別講演会「宇宙発超小型衛星による新しい宇宙開発への挑戦～多様な科学・ビジネス利用と教育への貢献～」をオンラインにて開催しました。超小型衛星分野の世界的第一人者である東京大学大学院工学研究科の中須賀真一教授に、宇宙開発の現状と展望について講演いただきました。



また、AI&IoT センター主催のシンポジウム「医工連携と産業 DX」をオンラインにて開催しました。シンポジウムでは、ロボット学の世界的第一人者である大阪大学大学院基礎工学研究科の石黒浩教授、コンピュータシミュレーションと数理モデルで抗がん剤の副作用予測を実現した富山大学学術教育部の高岡裕教授、ソニーグループ株式会社常務の北野宏明様に講演いただきました。



地域連携の深化

1. 地域・未来志向型の教育・研究・学修活動の支援

(1) 地域における新たな教育研究活動の開始

本学と池田町は、相互の発展を目的として、文化、教育、学術、産業、環境など幅広い分野における相互協力を推進するために、相互連携協定を締結しました。連携項目は、「地域課題を解決できる人材の育成」、「地域資源を活かしたまちづくりの推進」、「地域産業の活性化の推進」、「地域における大学生との連携」となっています。

2. 地域を育むダイバーシティの推進

本学において、多様な人材の活躍が教育・研究・社会貢献活動の活力であることから令和3年度より新たにダイバーシティ推進委員会を設置しました。ダイバーシティ推進に対する教職員の意識の醸成を図ることを目的として、大阪大学大学院工学研究科の加賀有津子教授をお招きし、大阪大学工学部・工学研究科における男女共同参画の取り組みについて講演いただきました。

3. 地域を牽引・地域と協創できる環境の推進

本学では、「世界と日本の未来を考えよう」を主題に各界の有識者をお招きし、第一線で活躍された豊富な経験と知識を講演いただく「未来塾」を毎年開催しています。令和3年度は、2年ぶりとなる第26回未来塾講演会を金井講堂で開催しました。今回は、2020年東京オリンピック柔道男子100Kg級で日本に21年ぶりに金メダルをもたらしたウルフ アロン氏をお招きし、「失敗から

学んだこと～金メダルへの道～」をテーマに講演をいただきました。



学生支援の充実

1. 学生の正課外活動環境の充実

留学生に福井県内の歴史や伝統文化を体験してもらい、福井への愛着を一層深めてもらおうと、夏季国際交流体験を3コースに分け「そば打ち体験」、「紙すき体験」、「陶芸体験」を企画、実施しました。

2. 主体的に活動するための学生リーダー育成プログラムの開発と運用

(1) 地域活動に必要とされる資質の育成

福井県の歴史・文化、生活や産業などに関心・理解を持ち、地域が抱える課題の解決に貢献できる人材の育成を目的に「地域課題解決型プロジェクト」を実施しています。令和3年度は、43件実施しました。また、地域課題解決のための提案募集イベント「地域創生ハッカソン in 福井」では、自身の知識と技術を活かして、積極的に参加しました。

(2) 社会的自立に必要な責任感・思考力を身につけた人材の育成

学生がさらに高いレベルの就職を実現するため、2・3年生を対象とした CAREER LEADERS CAMP を実施しています。令和3年度は、対面にて3日間の研修を実施しました。また、タイ王国にて海外インターンシップを受け入れて頂いているタイの海外事業所の担当経験者においでいただき、海外



で仕事をする事等についての講演を実施しました。

3. 個人の自立に向けたキャリア形成支援

(1) 学科と連携したきめ細やかな支援の強化

職員の基礎的また専門的な知識・技術の研鑽を積むために、一人あたり、年間2回以上の研修に参加し、研鑽を積んでいます。それにより学生支援体制を強固なものにし、多様な学生への支援策の充実にも取り組んでいます。

(2) 企業・行政機関・産業界との情報交換の強化

学部・大学院の卒業生・修了生が就職した企業や学生の採用に積極的な求人企業先から意見等を聴取し、教育の改革・改善に反映する為、離職率調査および卒業生に関するアンケートを実施しました。

本学の卒業生が就職した企業に対しては、在職状況および離職者について離職時期を尋ね、6ヶ月以内・3年以内の離職率を集計し、年度別や学科別など離職状況の検証を行いました。また、アンケートでは、卒業生の評価や企業が採用時に重視する項目等についての調査・検証を行いました。

グローバル化の推進

1. 教育・研究のグローバル化

(1) タイ、カナダの大学との共同研究

タイのランパーンラチャパット大学と本学デザイン学科が、令和2年度末にタイ国内でスタートした「Koyori Project 2021」に協力する形で共同研究を行いました。

また、カナダのオンタリオ工科大学とは、

本学原子力技術応用工学科の主催でSMR(小型モジュール炉)に関するコロキウムを開催したほか、令和3年度に本学博士後期課程で博士(工学)の学位を取得した修了生が9月から同工科大学の博士研究員として採用され、半年にわたり、SMRの研究を進めました。

(2) キングモンクット工科大学ラッカバン校との新規協定の締結

タイのキングモンクット工科大学ラッカバン校と新たに連携協定を締結しました。これにより、本学と連携協定を締結している海外教育機関は8か国13機関となりました。

2. 地域・社会のグローバル化への貢献

学校法人金井学園と連携協定を締結している若狭町から、「インバウンドの増加に向けてどのようなコンテンツが有効であるか外国人留学生の目線で調査してほしい」との依頼を受け、インターナショナルクラブのメンバー6人が2年目のフィールドワークに取り組みました。

令和3年度、同町の魅力を観光用プロモーションビデオ(PV)にして世界に発信しようと、現地での撮影に挑みました。PVは短編と長編の2パターンを制作し、それぞれ7か国語によるテロップを挿入して完成させました。





大学院教育の充実

1. 教育・研究のグローバル化

福井工業大学大学院工学研究科では、複数の指導教員による集団の指導体制に加え、学位取得までのロードマップあるいは研究計画の明示を求め、研究活動の実績を重視した研究指導を行っています。

2. キャリアや経済的サポートの充実

大学院生が研究活動に集中し研究成果を拡大できるよう、本学独自の奨学金制度を設け、学会発表時には補助等の経済的支援・キャリア支援などの幅の広いサポートを実施しています。

戦略的な広報

1. 大学ブランド力を向上させる広報

令和3年度は、ふくい PHOENIX ハイパープロジェクトや AI&IoT センター等の特徴ある研究分野の広報に加え、硬式野球部の全日本大学野球選手権での活躍等、教員・学生の活躍を、各ステークホルダーに向け、広く社会に情報発信を行うことで、大学のブランド力と認知度の向上を図りました。

2. 受験者層の動向にあわせた入試広報活動の展開

高校生、保護者、高校教員等のステークホルダーのニーズや動向を分析し、各ステークホルダーに向けた情報を発信しています。また、オープンキャンパス関連動画のさらなる充実や、十分な新型コロナウイルス感染予防策を講じて、オープンキャンパ



スを開催するなど、各種入試広報活動を展開しました。

質保証と情報公開

1. 内部質保証の機能向上と教育研究活動等の改善・向上

(1) IRセミナーの開催

国の施策「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に基づき、3つのポリシーを基盤とする教育・研究の質保証が求められています。また、18歳人口が大きく減少する中で「選ばれる大学」となるために、教学マネジメントの構築が急務となっております。それらを支援するIR活動について、それぞれの大学の取組を紹介するとともに、意見交換を行うことでお互いのIR活動の活性化を図り、大学運営への貢献を考える機会として、八戸工業大学とIRセミナーをオンラインにより開催しました。



(2) 学修成果の可視化に向けた取り組みの強化

教育改善に活かすことを目的に学修成果の可視化に関する取組みを充実させています。令和元年度より新生を対象として実施していた外部アセスメントテスト（自己分析WEBテスト）を令和3年度も継続実施し、新たに3年生対象にも実施をすることで、過年度比較・経年比較が可能となりました。各学科にその結果を提供することにより、初年次教育への活用や教学改善に繋げることができました。



3. 福井工業大学附属福井高等学校・中学校

1. 生徒の満足度を高める教育体制の構築

中高で統一した校時程となったことで、学科・コース問わず、クラブ活動や特別授業などの放課後の時間を自由に選択することができるようになりました。興味関心や能力は個々に異なるため、一人一人の夢を応援するためには個別最適化学習が必要不可欠です。

また、新型コロナウイルスの影響は大きく、生徒たちが登校できない状況も多くありました。リモート授業がニュースタンダードとなりつつある現状をふまえると、ICTを活用した教育体制の充実是最優先となる課題であり、いち早く実行することで他校との差別化を図ります。

○個別最適化学習を可能とする放課後指導の充実

放課後選択制授業という名称で多くの授業を開講し、生徒一人一人が目的に応じた授業を選択することで、生徒の学力向上に努めました。「反復数学演習」や「基本英作文」のような日々の授業の復習を担う講座から「現代文国公立入試問題研究」や「物理徹底攻略」のような入試に特化した講座、さらには「英語ディベート」や「プレゼンテーション基礎」のような主体性を伸ばす講座など合わせて36講座を開講しました。

○ICT教育の充実

①ICT教育用にタブレット導入

特別進学科の1年生は入学時に一人一台タブレットを購入しました。ICTを活用した授業の展開を各教科で検討し、学力向上に向けた効果的な指導方法を模索していきます。また、令和3年度も新型コロナウイ

ルス感染症による休校や、学級閉鎖措置が余儀なくされました。リモート環境が整い、素早く配信することができた一方で、画質や音質の向上や、質を保障できる授業展開などの課題も多く見られたため、令和4年度は対面と同様の質を保てるリモート授業の展開や、リモートだからこそできる可能性を探ります。



■導入したタブレット (dynabook K50)

②さらなるICT教育に向けた、ICT教育導入校への視察

令和3年11月11日、立命館守山中学校・高等学校へ視察に行きました。立命館守山中高は2014年には無線LANを設置、iPadを活用したICT教育に取り組んでいます。授業見学、タブレットを使用している生徒の様子、ICT担当者からの指導事例の報告、現在までの問題点、改善点などを聞くことができました。また、高性能カメラ(Logicool MeetUp)の性能についても聞くことができ、令和4年度に本校でも導入します。また、立命館守山中高のICT利用マニュアルを参考に、本校独自のマニュアルの作成を行い、より効果的なICT教育の実現に向けて取り組んでいきます。



■立命館守山高校の授業の様子



2. 意欲的に働ける環境の提供

教員が本来の業務を遂行するための環境を整え、学級経営や教科指導・生徒指導に専念できるように、勤務体制を見直します。○時差出勤制度、平日休暇制度の設定等の実施と実施状況による最適化

教員の労働時間の管理のため、全教員が「勤務表」を作成し、毎月の勤務の予定と実績の時間を各自確認し、管理職に提出して全教員の労働時間を管理しています。

また、全教員の労働時間の短縮と、部活動指導で休日に勤務している教員の休日確保のために、高校では時差出勤制度や平日休暇制度を、中学校では週に半日の平日休日を設け、12月まで実施しました。1月からは新型コロナウイルス感染症拡大により、休校、部活動の自粛や部活動時間の制限等があり、勤務実態に合わせて柔軟に対応しました。

○業務内容の軽減

中学校・高等学校ともにスマートフォン用保護者アプリを導入し、毎日の出欠連絡及び体温チェック、配布プリントの電子化を行えるようにしました。他にも保護者連絡会等の日程調整やアンケートにも使用することができます。特に、配布プリントの電子化はペーパーレス化を進めることもでき、また確実に保護者に連絡が伝わるとのことで非常に好評をいただいています。



■保護者アプリ

日時	2022/01/24	2022/01/24	出席・遅刻	全て	出席	欠席	遅刻	最終出席者数	500
1	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 08:12	36.0°C
2	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:43	35.9°C
3	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:28	36.3°C
4	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:18	36.2°C
5	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:06	36.2°C
6	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:22	35.8°C
7	2022-01-24	出席	3-1	1	出席	0	0	2022/01/24 07:27	36.1°C

■体温報告画面

○業務の効率化

令和4年度より、教員用タブレットを導入し、授業での活用やコロナ禍におけるオンライン授業対応に向けて活用していきます。また、授業支援ソフト「Sky Menu cloud」を導入して、主体的で対話的な深い学びの実現を目指します。

中学校では、スタディサプリ（高等学校では既に導入済み）を導入し、生徒の学習理解の補完を行えるようにします。

さらに、情報の共有をスムーズに行うために、校務支援システム Siems を導入し、中学校・高等学校・衛生看護専攻科の教務システムを統一しました。成績処理や学籍管理といった校務の効率化を図りました。また、教職員間での情報の共有もスムーズに行えるようになり、その情報をもとに中高が連携して生徒指導を行うことが可能になりました。今後は、更なる業務の効率化をはかるため、カスタマイズを進めて行きます。



■Siems



4. 福井県医療福祉専門学校

1. 介護福祉士国家試験合格率100%

令和3年度介護福祉士国家試験に日本人学生全員が合格しました。留学生については42.5%という結果でした。来年度は日本人学生合格率100%の継続と留学生合格率向上を目指し、試験対策をさらに強化します。

2. 保育士・幼稚園教諭コースで公務員対策講座を開講

新たな取り組みとして、公務員対策講座を開講しました。1年次は週2時間程度、2年次はさらに時間数を増やし、公務員(保育士)採用試験合格者の輩出を目指します。

3. 教育器材を充実

介護分野ではリフト・医療的ケア人体モデル・スライディングボード、保育分野ではピアノ、医療事務分野ではノートパソコンを購入し、学生がより良い環境で学習できる体制を強化しました。



4. ボランティアを通じて社会貢献

コロナ禍で介護施設や保育所などの多くイベントが中止または縮小となり、ボランティア活動の機会が減少していますが、障がい者スポーツ大会に参加しました。学生たちにとっては貴重な機会であり、コミュニケーション能力を高め、他者との関わり方を実践的に学びました。



5. 社会的信頼の構築

福井県社会福祉協議会が県内の高校生に福祉の仕事の魅力を身近に感じてもらうことを目的としたDVD作成に協力しました。DVDは県内の高校に配布され、授業などで活用されています。また福井市広報番組「ふくチャンネル」の収録に協力しました。介護を学ぶ在校生のインタビューなど、映像を通じて介護の魅力を福井県民に伝える機会となりました。



5. 福井製菓専門学校

1. 発想力・創造力を育む授業

世界的パティシエである青木定治氏や福井県人気店オーナーによる特別授業を実施しました。第一線で活躍されているプロの方々感性や製作過程に触れることで、学生の発想力・創造力を育む取り組みを行いました。



2. 製菓技術コンクール全国大会出場

福井県デコレーションケーキコンテストで金賞・銀賞・銅賞を受賞し、金賞・銀賞の作品は全国大会である東京ジャパンケーキショーに出展しました。



3. 地産地消およびオリジナル商品開発

本校では毎年テーマを決めて、地産地消の取り組みを行っており、その食材を使用したオリジナル商品を開発しています。今年度のテーマは「金ゴマ」。種まきから収穫、班に分かれての商品開発および発表会を行いました。

いました。



4. 秋菓祭（お菓子のバザー）

地域の方との交流の場であり、大量生産を経験できる場でもある「秋菓祭」。商品開発・原価計算・広告制作・接客販売など、学生にとって貴重な体験となりました。



5. 卒業制作発表会

これまで習得した知識や技術の集大成として、3点の作品を制作し、発表および試食を行いました。





6. 法人本部

1. 一体的な学園ブランドの創出

令和3年度より学校法人金井学園に加わった福井県医療福祉専門学校と福井製菓専門学校、福井公務員専門学校の一体感を生み出すため、校名のロゴをはじめとするビジュアル面を統一しました。ロゴデザインは現在学園と中高大で使用しているものに準拠する形で、デザイン学科の近藤晶准教授に作成を依頼し、ロゴマーク使用規程も作成から10年が経過していたため、より使いやすいよう見直しを行いました。

■ 学内掲示用のポスター



2. 未来を見据えた学校をつくる人財づくりと確保

予測不可能な時代を生き抜く人材を育てる“学校”を支える教職員は、既成概念にとらわれず、柔軟な発想力をもち、常に新しいことにチャレンジするアクティブな人材であり続ける必要があります。令和3年

度は個々の能力強化を目的とし、新任教職員研修の他、リーダーシップ研修（対象：主任および社会人経験4年目からの職員）、キャリア研修（対象：主任および社会人経験16年目からの職員）を実施。さらに学内インターンシップ（他部署業務体験）を継続実施することで組織の活性化を図りました。



また、自ら課題を発見し、考えて行動できる人材の確保に向けた取り組みとして、令和3年度の職員採用を見据えたインター



ンシップを夏に1回（対面形式）、冬に2回（オンライン）実施しました。

これらに加え、令和3年度は初めて中高教員採用を見据えたインターンシップを実施。中高の先生方の協力を得ながら、教育実習とは異なる、より本学の特色や魅力が伝わる内容としました。

3. ASEAN 地区における協定校との連携強化

令和3年4月30日付で、福井工業大学においてインターンシップ生を受け入れたことを契機に令和元年から交流を続けていた、タイ王国キングモンクット工科大学ラッカバン校と学術協定を締結しました。また、福井高校の姉妹校については、シーナカリンウィロート大学附属プラサーンミット高校、ワットラジャオロス高校、プルークパ



ンヤ高校への訪問が実現し、継続的な国際交流活動を依頼しました。(ASEAN 事務所)

3. 学園基盤の強化

本学で学ぶすべての学生・生徒に安定的に教育研究活動に取り組んでいただくため、また、すべての教職員が安心して質の高い教育を提供するためには、財務基盤の強化は必要不可欠です。その対策の一環として、令和3年度は、兄弟学費減免制度の見直しを図りました。今回の見直しにより、兄弟での大学進学を後押しすることとなり、内部進学率を上げることで、より一貫した学習成果に期待ができるとともに、入学者数の増加に繋がると考えます。

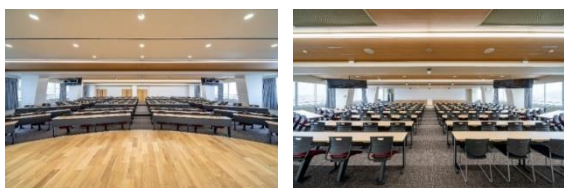
加えて、令和4年度当初予算編成についても見直しを図りました。経常費については、過去複数年の執行額の平均額を配賦とすることで、より決算額に近い予算編成としました。

4. 安心安全な環境の整備

本学園に在籍する約4,200名の学生・生徒がよりよい環境で学ぶことができるよう、施設・設備の改修を行いました。

- ・大学2号館 802 講義室の改修工事
- ・福井県医療福祉専門学校松本校舎、成和校舎の改修
- ・大学3号館、中高校舎、角折第二体育館、金井講堂エントランスの照明設備 LED 化
- ・大学女子寮、高校女子寮隣接地にランドリー棟および駐輪場の新設

■大学2号館 802 教室



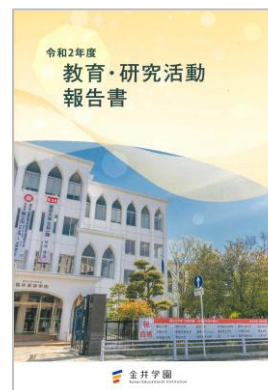
Kanai Educational Institution

また、車両運用体制を強化し、近年の大雪に対応するため、ミニホイローダー2台及び軽トラック（ダンプ式）2 第を購入しました。さらに、作業車運転者増加のため、学園にて作業免許講習会を実施し、20名の教職員が作業免許を取得しました。



5. 学園 IR の充実

学園 IR の周知活動として第2次中期経営計画最終年度版から発行を開始した「教育研究活動報告書」は、令和2年度版をもって3冊目となりました。作成した「教育・研究活動報告書」は教職員に配布をしました。各年度の事業成果や学園の課題等を可視化し、学園全体で共有することは、教職員が同じビジョンを描く上で大きな意義があると考えています。



また、第3次中期計画からは、法人本部における事業達成度を外部評価、内部評価にて計るため、毎年度「学園・学校に関するアンケート」を実施しています。この結果が法人本部の事業計画 KPI に反映されることにより、確実な事業進捗につなげ、福井工業大学、附属福井高等学校・中学校、福井県医療福祉専門学校、福井製菓専門学校の学校運営に有効に反映させていければと考えています。



7. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

- ・学校法人新和学園との合併
福井県医療福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校を設置する学校法人新和学園と合併し、令和3年4月1日より運営開始

【福井工業大学】

- ・キングモンクット工科大学ラッカバン校との連携協定締結
- ・大学2号館802講義室の改修工事

【福井高等学校・福井中学校】

- ・高等学校および中学校の校時程統一
- ・ICT教育用タブレットの導入
- ・スマートフォン用保護者アプリの導入
- ・時差出勤制度、平日休暇制度の設定

【福井県医療福祉専門学校】

- ・文化教養専門課程日本語学科の設置申請（令和4年1月認可）
- ・介護福祉士国家試験合格率100%
- ・福井県医療福祉専門学校松本校舎、成和校舎の改修

【福井製菓専門学校】

- ・世界的パティシエ 青木定治氏による特別講演会の開催

【福井公務員専門学校】

- ・令和4年度からの学生募集停止



8. 施設等の状況

主な施設設備の状況は次のとおりです。

(令和4年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等 (うち、所有地)	帳簿価額(千円)	摘要
福井県福井市 (福井キャンパス)	校地	72,389㎡	2,570,067	大学、高校、中学校及び法人本部が利用している。
	校舎等	78,316㎡	12,750,173	
福井県福井市 (角折校地)	校地	15,827㎡ (13,020㎡)	243,476	クラブ活動に利用している。
	校舎等	1,878㎡	78,192	
福井県あわら市 (芦原キャンパス)	校地	159,387㎡ (105,603㎡)	1,138,688	大学の学部の一部とクラブ活動に利用している。
	校舎等	10,511㎡	1,392,939	
福井県吉田郡 永平寺町 (カール・マイヤーグラウンド)	校地	121,085㎡ (121,085㎡)	138,740	大学及び高校のグラウンドとして利用している。
	管理棟等	916㎡	65,205	
福井県福井市 (高木校舎)	校地	1,879㎡	借用地	福井県医療福祉専門学校が利用している。
	校舎等	1,600㎡	136,661	
福井県福井市 (松本校舎)	校地	1,222㎡ (1,222㎡)	83,228	福井県医療福祉専門学校及び福井製菓専門学校が利用している。
	校舎等	1,926㎡	40,946	
福井県福井市 (成和校舎)	校地	594㎡	借用地	福井県医療福祉専門学校が利用している。
	校舎等	504㎡	借用物件	
福井県坂井市 (第三体育館)	校地	1,049㎡ (1,049㎡)	3,254	福井県医療福祉専門学校及び福井製菓専門学校が利用している。
	校舎等	815㎡	6,512	

(令和3年度 実績)

- ・大学女子寮建設 (令和4年3月完成)
- ・さくら寮トリプル棟建設 (令和4年1月完成)
- ・大学2号館8階2-801大講義室改修工事 (令和4年9月完成)
- ・福井市光陽1丁目土地購入 (令和4年7月購入)
- ・福井市光陽2丁目土地購入 (令和4年6月購入)

(令和4年度 事業)

- ・大学8号館8階2-801大講義室及びEVホール改修工事 (令和4年8月予定)
- ・福井県医療福祉専門学校高木校舎改修工事 (令和4年7月予定)
- ・福井製菓専門学校改修工事 (令和4年8月予定)
- ・福井中学校正門改修工事 (令和4年8月予定)
- ・カール・マイヤーグラウンド改修工事 (令和4年9月予定)

- 耐震化率 97.76%
 - 大学 100.00%
 - 中高 97.13%
 - 専門学校 79.42%



1. 決算の概要

1-1. 資金収支計算書

【概要】

資金収支の規模は、前年度比 1,983 百万円増の 16,422 百万円となりました。

まず、収入の部については、主たる収入である学生生徒等納付金収入において、学校法人新和学園との合併により、在籍者数が増加したことにより、前年度比 111 百万円増の 3,845 百万円となりました。

補助金収入では、前年度比 72 百万円増の 1,143 百万円となりました。

一方で、その他の収入は、未収入金収入、立替金回収、特定資産からの繰入収入

などが前年度の 7,886 百万円に対し、今年度は 7,233 百万円となりました。

支出の部については、教育研究経費支出では、全体で前年度比 156 百万円増の 1,740 百万円となりました。また、今年度は、土地の売却や大規模工事等があったことから、施設関係支出は 1,023 百万円となりました。なお、設備関係支出は前年度比 306 百万円増の 640 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

収入の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	3,687,808	3,701,001	3,742,829	3,734,450	3,845,330
手数料収入	50,612	55,899	74,923	60,618	44,819
寄付金収入	45,159	158,984	94,849	90,829	184,906
補助金収入	1,023,897	1,024,248	1,005,655	1,071,471	1,143,426
資産売却収入	1,068,222	14,030	303,400	1,291	1,162
付随事業・収益事業収入	62,976	48,631	64,174	46,697	50,696
受取利息・配当金収入	172,864	70,850	105,052	105,804	183,987
雑収入	136,737	80,580	84,492	113,042	106,168
借入金等収入	0	0	0	0	2,000,000
前受金収入	553,969	584,893	481,868	430,625	480,410
その他の収入	11,422,961	9,560,747	8,488,114	7,885,748	7,233,462
資金収入調整勘定	△ 844,581	△ 737,434	△ 772,125	△ 682,381	△ 783,618
前年度繰越支払資金	4,082,257	2,163,752	1,202,034	1,581,160	1,930,927
収入の部合計	21,462,881	16,726,182	14,875,265	14,439,354	16,421,675

支出の部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	2,498,455	2,445,834	2,474,605	2,502,254	2,677,032
教育研究経費支出	1,570,891	1,746,476	1,622,533	1,583,513	1,739,954
管理経費支出	576,332	623,047	611,429	614,771	655,193
借入金等利息支出	549	37	0	0	2,635
借入金等返済支出	52,330	6,110	0	0	95,200
施設関係支出	1,513,559	944,286	245,927	269,593	1,023,206
設備関係支出	410,495	251,874	311,351	333,758	640,380
資産運用支出	11,074,423	7,450,462	6,252,351	5,753,202	5,253,183
その他の支出	2,290,472	2,454,006	2,053,850	1,824,503	2,111,623
資金支出調整勘定	△ 688,378	△ 397,982	△ 277,941	△ 373,166	△ 793,517
翌年度繰越支払資金	2,163,752	1,202,034	1,581,160	1,930,927	3,016,788
支出の部合計	21,462,881	16,726,182	14,875,265	14,439,354	16,421,675



1-2. 事業活動収支計算書

【概要】

設置する大学および高等学校における定員の充足、ならびに学園全体での経費削減に努めてはおりますが、教育活動収支差額の前年度比 85 百万円増、教育活動外収支差額の前年度比 76 百万円増、よって経常収支差額は前年度比 9 百万円増（マイナス 850 百万円）となりました。

また、特別収支差額は、550 百万円増の 727 百万円の計上となりました。よって、基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 541 百万円改善の△124 百万円、当年度収支差額は前年度比 820 百万円増の 2,060 百万円の支出超過を計上し、翌年度繰越収支差額は 13,013 百万円の支出超過となりました。事業活動収入計は前年度比 864 百万円増加となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

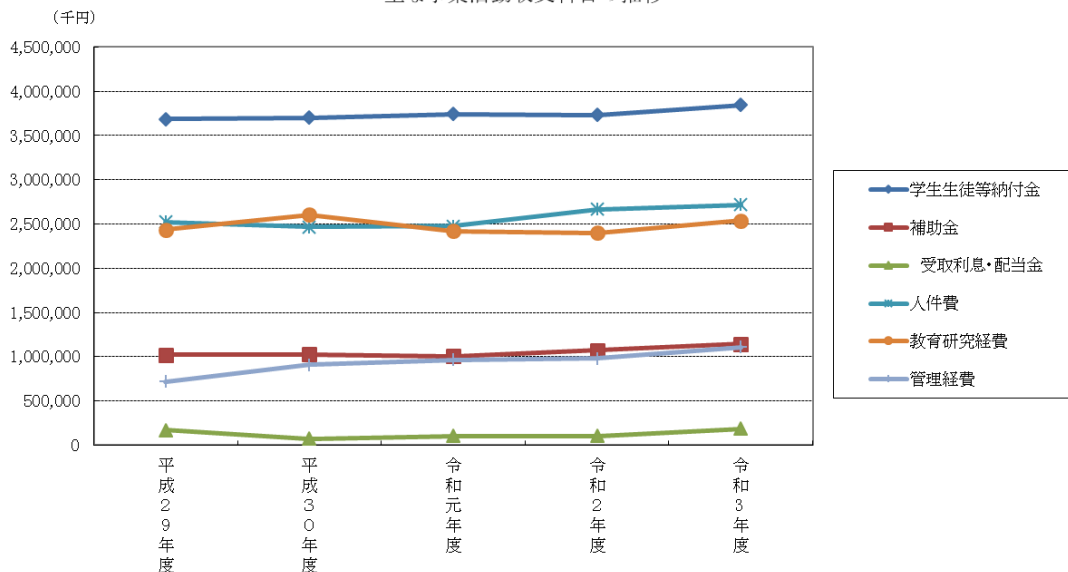
科目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
教育活動収入の部	事業活動収入						
	学生生徒等納付金	3,687,808	3,701,001	3,742,829	3,734,450	3,845,330	
	手数料	50,612	55,899	74,922	60,618	44,819	
	寄付金	55,704	158,984	94,849	90,829	185,106	
	経常費等補助金	957,439	1,010,630	955,866	1,037,843	1,098,749	
	付随事業収入	62,279	48,789	63,754	46,459	50,561	
	雑収入	151,288	90,496	88,992	129,182	105,573	
	教育活動収入 計	4,965,130	5,065,798	5,021,215	5,099,381	5,330,138	
	事業活動支出の部	人件費	2,524,421	2,464,680	2,478,838	2,668,582	2,717,251
		教育研究経費	2,435,491	2,605,343	2,420,844	2,399,528	2,536,939
管理経費		720,311	906,596	964,233	979,086	1,108,200	
徴収不能額等		14,844	17,419	9,742	0	578	
教育活動支出 計		5,695,067	5,994,038	5,873,658	6,047,197	6,362,969	
教育活動収支差額		△ 729,937	△ 928,240	△ 852,443	△ 947,815	△ 1,032,830	
科目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
教育活動外収支	収入の部						
	事業活動						
	受取利息・配当金	172,864	70,850	105,052	105,804	183,987	
	その他の教育活動外収入	0	0	400	168	595	
	教育活動外収入 計	172,864	70,850	105,452	105,972	184,582	
	支出の部						
	事業活動						
	借入金等利息	549	37	0	0	2,635	
	その他の教育活動外支出	36	101	0	1	0	
	教育活動外支出 計	585	138	0	1	2,635	
教育活動外収支差額		172,280	70,713	105,452	105,971	181,947	
経常収支差額		△ 557,658	△ 857,528	△ 746,991	△ 841,845	△ 850,884	
科目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
特別収支	収入の部						
	事業活動						
	資産売却差額	52,667	27,064	11,549	141,197	372,211	
	その他の特別収入	66,474	26,085	64,436	47,119	370,889	
	特別収入 計	119,141	53,149	75,985	188,316	743,100	
	支出の部						
	事業活動						
	資産処分差額	26,924	305,986	6,549	11,708	14,826	
	その他の特別支出	7	0	431	0	1,624	
	特別支出 計	26,931	305,986	6,980	11,708	16,450	
特別収支差額		92,210	△ 252,837	69,005	176,607	726,649	
基本金組入前当年度収支差額		△ 465,449	△ 1,110,364	△ 677,985	△ 665,237	△ 124,235	
基本金組入額合計		△ 471,859	△ 583,118	△ 297,420	△ 575,129	△ 1,935,340	
当年度収支差額		△ 937,308	△ 1,693,482	△ 975,405	△ 1,240,366	△ 2,059,575	

(参考)

事業活動収入計	5,257,136	5,189,798	5,202,653	5,393,670	6,257,820
事業活動支出計	5,722,583	6,300,162	5,880,638	6,058,906	6,382,054



主な事業活動収支科目の推移



1-3. 貸借対照表

【概要】

本年度の資産総額は、前年度比2,304百万円増の35,284百万円となりました。資産の部において、土地の取得のほか、建物、構築物では年次計画による改修等を実施しました。負債の部において、退職給与引当金の増

加、地上局アンテナシステム及びカールマイヤーグラウンド改修工事に関わる費用を借入したことにより、負債総額は、前年度比2,427百万円増の4,491百万円となりました。

(単位：千円)

【経年比較表】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	33,394,635	32,937,232	31,634,748	30,798,803	31,951,515
流動資産	2,459,716	1,455,578	1,807,266	2,181,694	3,332,028
資産の部合計	35,854,351	34,392,810	33,442,014	32,980,497	35,283,543
固定負債	1,042,946	999,806	985,935	1,138,206	2,828,242
流動負債	1,441,035	1,132,998	874,058	925,508	1,662,752
負債の部合計	2,483,980	2,132,804	1,859,993	2,063,714	4,490,994
基本金	40,414,624	40,997,742	41,295,163	41,870,292	43,805,632
繰越収支差額	△ 7,044,253	△ 8,737,736	△ 9,713,142	△ 10,953,509	△ 13,013,084
純資産の部合計	33,370,371	32,260,006	31,582,021	30,916,783	30,792,549
負債及び純資産の部合計	35,854,351	34,392,810	33,442,014	32,980,497	35,283,543



2. 主な財務比率比較

2-1. 主な財務比率比較

比 率	計算式	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	49.1%	48.0%	48.4%	51.3%	49.3%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	68.5%	66.6%	66.2%	71.5%	70.7%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	47.4%	50.7%	47.2%	46.1%	46.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	14.0%	17.6%	18.8%	18.8%	20.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-8.9%	-21.4%	-13.0%	-12.3%	-2.0%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	119.6%	136.8%	119.9%	125.7%	147.6%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	71.8%	72.1%	73.0%	71.7%	69.7%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.1%	3.1%	1.8%	1.7%	3.0%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.1%	3.1%	1.9%	1.7%	3.4%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	18.2%	19.5%	18.4%	19.2%	17.6%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	18.6%	19.7%	18.6%	19.9%	19.9%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	9.0%	11.2%	5.7%	10.7%	30.9%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	17.7%	18.8%	19.6%	19.5%	17.7%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-10.9%	-18.1%	-14.6%	-16.6%	-15.4%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-14.7%	-18.3%	-17.0%	-18.6%	-19.4%

- 「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を算出しました。

※1 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

※2 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計



3. その他

3-1. 有価証券の状況

(単位：千円)

		(令和4年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
計上額を 超過するもの が 貸借 対照表	有価証券	178,785	293,191	114,406
	減価償却引当特定資産	1,972,567	2,370,785	398,218
	施設設備拡充引当特定資産	1,472,580	2,002,717	530,136
	退職給与引当特定資産	87,682	154,193	66,510
	第3号基本金引当特定資産	1,000,000	1,085,769	85,769
	教育研究基金	0	0	0
	計	4,711,615	5,906,654	1,195,039
	(うち満期保有目的債券)			0
計上額を 超過しないもの が 貸借 対照表	有価証券	211,793	176,293	△ 35,500
	減価償却引当特定資産	1,086,113	1,065,517	△ 20,596
	施設設備拡充引当特定資産	943,500	820,553	△ 122,947
	退職給与引当特定資産	272,350	267,470	△ 4,880
	第3号基本金引当特定資産			0
	計	2,513,755	2,329,832	△ 183,923
		(うち満期保有目的債券)		
合計		7,225,370	8,236,486	1,011,116
(うち満期保有目的の債券)				0
時価のない有価証券		1,910		
有価証券合計		7,227,280		

種類	(令和4年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	0	0	0
株式	499,020	495,737	△ 3,284
投資信託	2,947,183	3,320,782	373,599
その他	3,779,167	4,419,967	640,800
計	7,225,370	8,236,486	1,011,116
時価のない有価証券		1,910	
有価証券合計		7,227,280	

3-2. 借入金の状況

(令和4年3月31日現在)

借入先	借入残高	利率	借入期間	担保等
福井銀行	1,904,800 千円	0.32000%	7年0か月	なし

3-3. 学校債の状況 . . . なし



3-4. 寄付金の状況

○教育振興寄付金（大学：1口5万円、高等学校・中学校・専門学校：1口3万円）

令和3年 募集実績

・大学	4,100 千円
・高等学校	3,350 千円
・中学校	790 千円
・福井県医療福祉専門学校	90 千円

○一般寄付金

・株式会社エフ・ケイ・ケイ	3,000 千円
・株式会社山田組	2,000 千円
・株式会社メディアミックス	1,000 千円
・三谷商事株式会社	1,000 千円
・株式会社 見谷組	2,000 千円
・英光産業株式会社	3,000 千円
・日本中央競馬会	1,000 千円

・その他 PTA 寄付金、卒業寄付金

3-5. 補助金の状況

【福井工業大学】

・令和3年度私立大学等経常費補助金	301,138 千円
・令和3年度授業料等減免費交付金	117,865 千円
・令和3年度私立学校情報機器整備費補助金	9,375 千円

【福井工業大学附属福井高等学校】

・令和3年度私立学校施設整備費補助金	22,972 千円
・令和3年度私立高等学校教育振興補助金	472,566 千円

【福井工業大学附属福井中学校】

・令和3年度私立中学校教育振興補助金	55,713 千円
--------------------	-----------

【福井県医療福祉専門学校・福井製菓専門学校】

・令和3年度高等教育修学支援事業補助金	3,210 千円
---------------------	----------



3-6. 収益事業の状況

収益事業として、不動産賃貸業及び福井県立馬術競技場（福井ホースパーク）及び若狭町みさき漁村体験施設（みさきち）の指定管理を行っており、その状況は以下のとおりです。

【貸借対照表】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
流動資産	262,536	306,523	337,191	388,819	405,083
固定資産	822,472	797,730	787,601	816,975	802,078
資産合計	1,085,008	1,104,253	1,124,792	1,205,795	1,207,160
流動負債	16,962	17,802	15,008	30,918	17,610
固定負債	1,215	1,215	840	3,700	3,700
負債合計	18,177	19,017	15,848	34,618	21,310
純資産合計	1,066,831	1,085,236	1,108,943	1,171,176	1,185,851
負債・純資産合計	1,085,008	1,104,253	1,124,791	1,205,795	1,207,160

【損益計算書】

（単位：千円）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
事業収入	74,607	76,573	76,970	82,976	89,527
補助金収入	0	0	0	0	0
一般管理費	68,083	79,291	71,327	73,102	76,574
営業利益	6,524	△ 2,718	5,643	9,874	12,953
営業外損益	1,554	1,122	1,622	1,463	1,721
経常利益	8,078	△ 1,596	7,265	11,337	14,674
特別損益	0	0	△ 75	0	0
当期純利益	8,078	△ 1,596	7,190	11,337	14,674

3-7. 関連当事者との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社 C&B	3,000千円	48%	不動産賃貸業務委託、人材派遣契約の締結	理事長が52%出資。委託費180百万円支払い。

4. 来年度以降の展望

第3次中期計画の3年目となった令和3年度は、財務5ヵ年計画の目標水準を達成することは叶いませんでした。累積収支の実状としても支出過多の状況が続いております。第3次中期計画の終盤となる令和4年度以降は、折り返し年度となった令和3年度の状況を鑑みつつ、5ヵ年計画の達成に向けて、教育・研究への影響を心配され

ないよう「厳格化」を図りながら、1つ1つの取組において、学園基本理念の下、教育環境の充実、学生・生徒へ更に質の高いサービスの提供を実現するために、収入の安定化や、支出の最適化により収支均衡を目指し、財務のさらなる改善に努めてまいります。